

八重山地区潜水病予防学習会・健康診断

八重山支庁農林水産振興課

1. テーマ

平成11年度潜水病予防学習会・健康診断

2. 目的

八重山漁協には、潜水器漁業を行う者が100名前後おり、電灯潜り等で過酷な潜水を行った場合等、軽い潜水病の症状にかかる者も多い。そこで、潜水病に対する知識を十分に習得するとともに、個別にカウンセリングを受け、今後の潜水方法等について配慮してもらうことを目的とした。

3. 対象

潜水器漁業者（当日出席16名）、漁協職員

4. 講師

琉球大学医学部付属病院高気圧治療部副部長（助教授） 井上 治

5. 実施場所

八重山漁協 2階会議室

6. 日時

平成12年1月30日（日）午後1時30分～3時30分

7. 内容

(1) 講演

- ・潜行時の傷害にスクイズがあり、鼓膜の破損、感染症、聴力障害を引き起こす場合がある。潜行中耳に痛みを感じたら耳抜きを行うか、できない場合は潜水を

やめ耳鼻科の治療を受けること。

- ・浮上時の傷害をリバースブロックといい、浮上中に息を止めていると肺が破裂して血管に空気が入り込む可能性がある。
- ・長時間、深いところにいると、それだけ身体はより多くの窒素を吸収する。大量の窒素を吸収した後に急速に浮上すると、余分な窒素が身体の中で気泡を形成し、減圧症にかかる。この病気は肌の発疹、極度の疲労感、関節の痛みといったものから、重大なものでは麻痺や意識不明まで引き起こす。

- ・琉大病院で扱った重症患者の事例では、重症患者の殆どは40代以上であること、長時間潜水、深潜り、ふかし（一旦浮上した後、調子がおかしいので元いた水深まで戻って再浮上すること）が重症になる原因であることが紹介された。

・潜水病にならないためには体調を整える、体力をつける、水分を取る、水面休息時間を長くとることが重要。

・水深30mを越えると「窒素酔い」という麻酔がかかり、気分の高まった状態になり、恐怖感がなくなり、まだ潜れるという気持ちになるので、注意が必要。

(2) カウンセリング

質問者から潜る水深、潜水時間、水面休息時間等をヒアリングしながら治療方法を指導。

- ・浮上時にめまいがする。

耳抜きができないときに起こるリバースブロック。風邪を治す、耳鼻科の治療

を受けることが対策になる。

- ・15年前に潜水病で人工関節を入れたがこのままで大丈夫か。

人工関節は一般に20年しかもたない。年に1回は琉大病院で検査を受けること。

- ・少し無理して潜ると指先がちりちりと痛む。

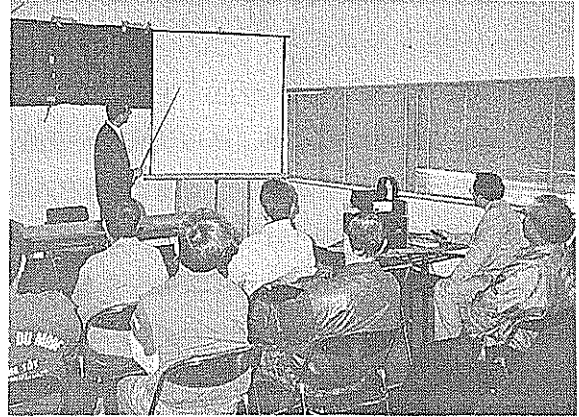
軽い潜水病。長時間潜水を避け、休息を十分にとる。

- ・肘の関節が痛む。

海中作業からくる腱鞘炎で、治療を受ければ直る。



講師の井上治先生



スライドを使った講習風景



聴講者



個別カウンセリング